

2016年度第3四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2016年11月11日

I . EAJ事業内容のご説明

EAJとは？

日本エマージェンシーアシスタンス(EAJ)は、お客様が海外へ渡航されたり海外で生活される折に、何かでお困りになったり、何かしらの支援が必要となった際に、それが世界中の「いつ、どこであっても」、アシスタンスというサービスの提供を通じて事態を解決へと導いてゆく会社です。

例えば、お客様が海外渡航中に病気や怪我に遭われた場合、たとえご本人が言語、医療制度さらには社会環境面等でのギャップで対応できなくても、EAJが的確な医療機関の紹介、診療予約、通訳提供といった受診支援を行うことにより、お客様は、信頼できる水準の医療サービスを安心して受けることができます。

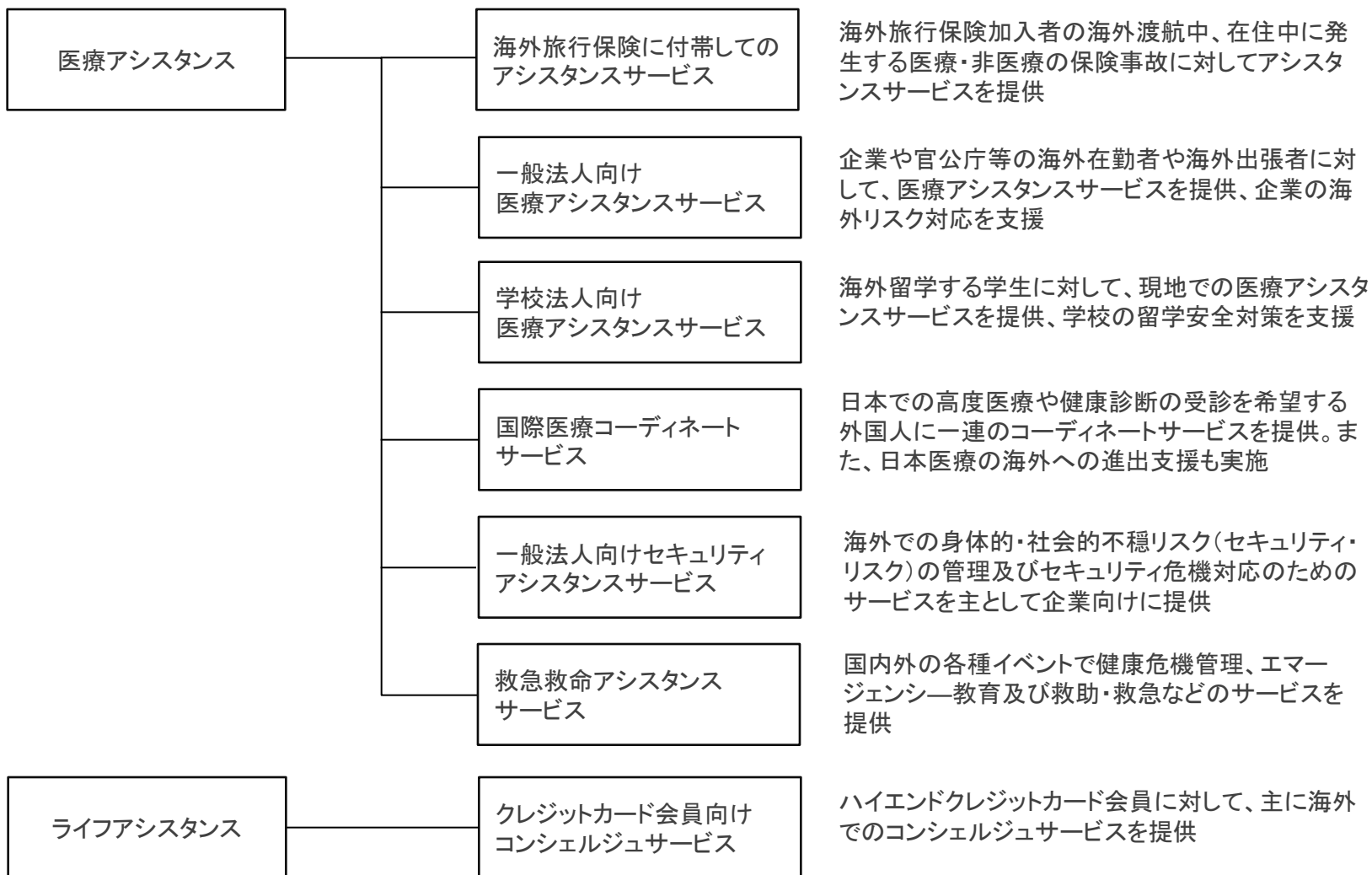
また、海外のレストランやエンターテインメントの予約、あるいはお買い物支援などのコンシェルジュ・サービス(ライフアシスタンスサービス)の提供により、海外での時間を「より楽しく」、「より快適に」お過ごし頂くためのお手伝いもしております。

EAJは、このような医療を始めとする緊急対応アシスタンスやライフアシスタンスの提供を通じて「アシスタンスでお客様の世界を広げる」ことをミッションに、24時間365日休むことなく活動しています。

当社事業

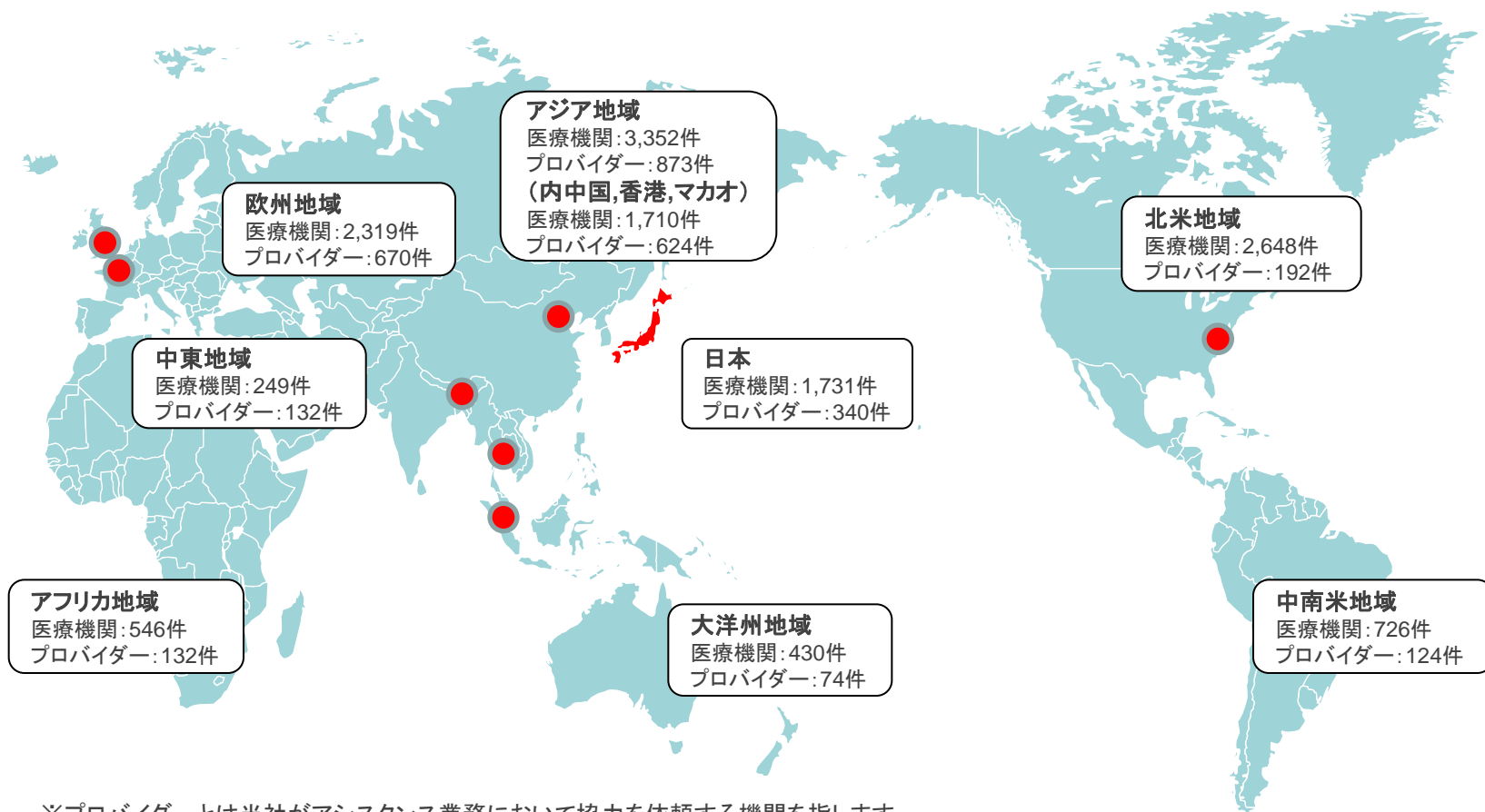
事業

展開する主なサービス概要



EAJのネットワーク網

- 7ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス、バングラデシュ）
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は310名
- 世界各国で提携関係にある12,001件の医療機関と2,537件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

EAJ ビジネス4つの強み

① ジャパンスタンダードのサービス

- ・ジャパンスタンダードとは、品質には絶対に妥協しないというコミットメントと日本固有の思いやりの心が融合して作り出される高度のサービスであるとEAJは考えます。
- ・日本の心をもってお客様の期待を良く理解し、異文化への造詣も深いコーディネータが経験を積んだ専門家の適切な支援を受け、サービス提供します。
- ・「医療渡航支援企業(※1)」として訪日外国人にも「思いやりの心」に根ざした日本標準のサービスを提供するインバウンド・アシスタンスのリーディングカンパニーです。

② プロフェッショナルクオリティ

- ・厳しいトレーニングと実務経験に裏打ちされたスキル、そして高い使命感を有するコーディネータが世界各地で24時間365日スタンバイのうえ、お客様の期待を超えるサービスの提供に力を尽くします。医療アシスタンスでは、国際的な医療や保険に関する幅広い知識を持った多言語対応のコーディネータが対応します。ライフアシスタンスでは、国際的なライフ・スタイルのニーズに関する広い知見と高いコンシェルジュマインドを備えた多言語対応のコーディネータが対応します。

※1 「医療渡航支援企業認証制度」は、日本政府の成長戦略の一環として、来日して治療を受けようとする外国人が安心して医療サービスに関する相談や受診の支援が受けられるよう、一定の基準を満たした質の高い支援サービスを提供できる企業に日本政府が”お墨付き”を与える制度です。

EAJ ビジネス4つの強み

③ワンストップでアシスタンスを提供

- ・緊急第一報の受付から、医療機関での受診、診療経過のモニター、さらには帰国搬送まで、必要なアシスタンスを当社のコーディネーターがワンストップで提供することにより高度に安定した品質のサービスを提供することができます。
- ・セキュリティアシスタンスと医療アシスタンスをセットで提供することができ、これにより医療とセキュリティという企業にとっての二大ビジネスリスクへの統合的ソリューションを可能にします。

④グローバルネットワーク

- ・世界中の医療機関及び役務提供機関との提携を通じて構築された広範で信頼性の高いサービスネットワークが「世界中のいつ、どこであっても」提供可能なアシスタンスを実現しています。
- ・軍事・諜報・公安といった領域での高度なプロフェッショナルが必要とされるセキュリティ関連サービスも、国際的な人脈に基づくセキュリティ専門会社(※2)との業務提携を通じて提供されています。

※2 当社はHill & Associates社、ユナイテッド・ヘルスケア・グローバル社、Spartent社といった国際的なセキュリティリスクマネジメント会社と提携しております。

女性の活躍について

EAJでは多数の女性が活躍しています。政府が提唱する「すべての女性が輝く社会作り」に賛同し、働く女性を応援し、今後も多くの女性に活躍の場を提供していきます。

●当社の特長

▶女性社員が多い

基幹業務であるアシスタンスコーディネーターには女性が多く、女性社員比率は68% (2016年度9月末データ) です。

▶女性の管理職が多い

女性管理職比率は37.5% (2016年度9月末データ) と高い比率であり、また、役員が1名、監査等委員として就任しています。

▶女性のワークライフバランスを支援

育児休業制度 (2015年度利用者は6名) と育児短縮勤務制度 (2015年度利用者は5名) を設け、仕事と育児を両立できるような環境を整えております。



Ⅱ. 2016年度第3四半期連結累計期間の決算報告

第3四半期の決算業績サマリー

- 売上高 1,912百万円(前年同期: 1,931百万円)
- 営業利益 118百万円(前年同期: 96百万円)
- 経常利益 73百万円(前年同期: 90百万円)
- 当四半期純利益 47百万円(前年同期: 72百万円)

- 売上高は1,912百万円とおおよそ順調に推移。
 - 医療アシスタンス事業は官公庁からの受注額の減少及び4月からの一部不採算契約の更新見送りの影響から短期的に売上が減少し、売上高は前年同期比で2.1%減となった。
 - ✓ 2016年第3Qの海外出国者数は円高の影響もあり増加してアシスタンスサービスに関する売上高(ケース売上)は全般に堅調であったが、一部契約更新見送りの影響も出た。
 - ✓ 法人・大学・セキュリティ売上は好調であった。
 - ✓ 外国人患者受入事業は訪日外客数の増加を受けて、前年同月比で売上が増加した。
 - ライフアシスタンス事業の売上高は前年同期比で4.6%増となった。
 - ✓ 提携会社の営業拡大に貢献し、サービス提供数が増加したため増収増益であった。

- 費用に関しては、円高による海外センターへの支払額の減少、要員の適正化、ITの活用等によりコスト抑制が進み、営業利益は118百万円(前年同期比23.3%増)となった。

- 経常利益は、海外医療機関への立替払用資金に為替差損が発生したこと等により73百万円、当四半期純利益は47百万円となった。

第3四半期および直近のトピックス

- **営業利益が通期予想を上回り、期末業績予想修正を実施。**

円高により海外出国者数が増加する好環境の中、官公庁受注の減少・一部不採算契約更新見送りの影響から短期的に売上が減少したものの、最大取引先のシェアの拡大、法人・大学売上の好調に支えられて、医療アシスタンス売上はおおよそ堅調に推移した。費用面では円高により海外センターへの支払いが抑えられ、要員の適正化等のコスト抑制に努めた。

これらの結果、第3四半期の業績は売上高は若干計画を下回ったものの、営業利益は大幅に計画を上回り、期末の業績予想修正も実施した(24ページ参照)。

- **医療ツーリズムが好調**

医療渡航支援企業に認証されたことで認知度と信頼が増し、外国人患者受入事業も好調であり、また訪日外国人が増加するにつれて、日本の医療機関へ患者を緊急対応で手配するケースも増えている。

8月には社会医療法人財団慈泉会と中国に「訪日治療相談支援センター」を立ち上げ、中国人患者の日本医療受診を支援することになった。3月に提携した中国医療ポータルサイト「就医160」との相乗効果で今後も積極的に中国人患者を中心に受入れ人数を増やしていく。

- **イベント救護サービスの提供開始**

社内の複数の救急救命士・看護師、社外の救護員のネットワークを生かして、スポーツイベントや、コンサートなどの娯楽イベントにおける救護活動を開始した。2020年の東京オリンピックに向けて当社イベント救護ビジネスの認知度向上への営業努力とノウハウの高度化を進める。

セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、売上は前年より若干減少したものの、円高により邦貨建ての海外センターへの支払額が減少し、営業利益は増加した。
- 医療アシスタンス事業における外国人患者受入に係る売上(インバウンド売上)は堅調に推移した。
- ライフアシスタンス事業は売上・利益ともに増収増益だった。

(単位:百万円)

| | 前年同期 | | 第3四半期実績 | |
|-------------|-------|------|---------|------|
| | 売上高 | 利益 | 売上高 | 利益 |
| 医療アシスタンス事業 | 1,618 | 277 | 1,585 | 309 |
| ライフアシスタンス事業 | 312 | 76 | 327 | 90 |
| 調整額※ | - | △257 | - | △281 |
| セグメント合計 | 1,931 | 96 | 1,912 | 118 |

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

第3四半期連結貸借対照表

- 当四半期純利益増加により現金及び預金が増加した。
- 借入金の一部返済により負債が圧縮された。

(単位:百万円)

| | 2015末 (構成比) | 第3Q実績 (構成比) |
|----------|--------------|--------------|
| 資産合計 | 2,048 (100%) | 1,862 (100%) |
| 流動資産 | 1,751 (86%) | 1,593 (86%) |
| 固定資産 | 296 (14%) | 262 (14%) |
| 負債合計 | 1,379 (67%) | 1,189 (64%) |
| 流動負債 | 1,255 (61%) | 1,113 (60%) |
| 固定負債 | 124 (6%) | 76 (4%) |
| 参考:借入金残高 | 864 (42%) | 676 (36%) |
| 純資産合計 | 668 (33%) | 672 (36%) |

資産

- 営業キャッシュフローの増加による現金及び預金の増加
- 医療アシスタンスサービスに関わる立替金の回収

負債

- 借入金の一部返済を実施

純資産

- 当四半期純利益が増加
- 円高による為替換算調整勘定の減少

Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

2016年全社重点事業目標の遂行実績

全社重点事業目標

進捗状況

オペレーショナルエクセレンスの追求

- ・各海外拠点と東京本社の連携を密にすることで、全世界センターを1つのヴァーチャルな拠点として扱うシングルオペレーションプラットフォーム化を実現し、24時間365日切れ目のない高品質サービスを提供。
- ・感謝の声・クレームの共有化などの施策により「CSIに徹する」オペレーションの実践。

リエンジニアリングの追求

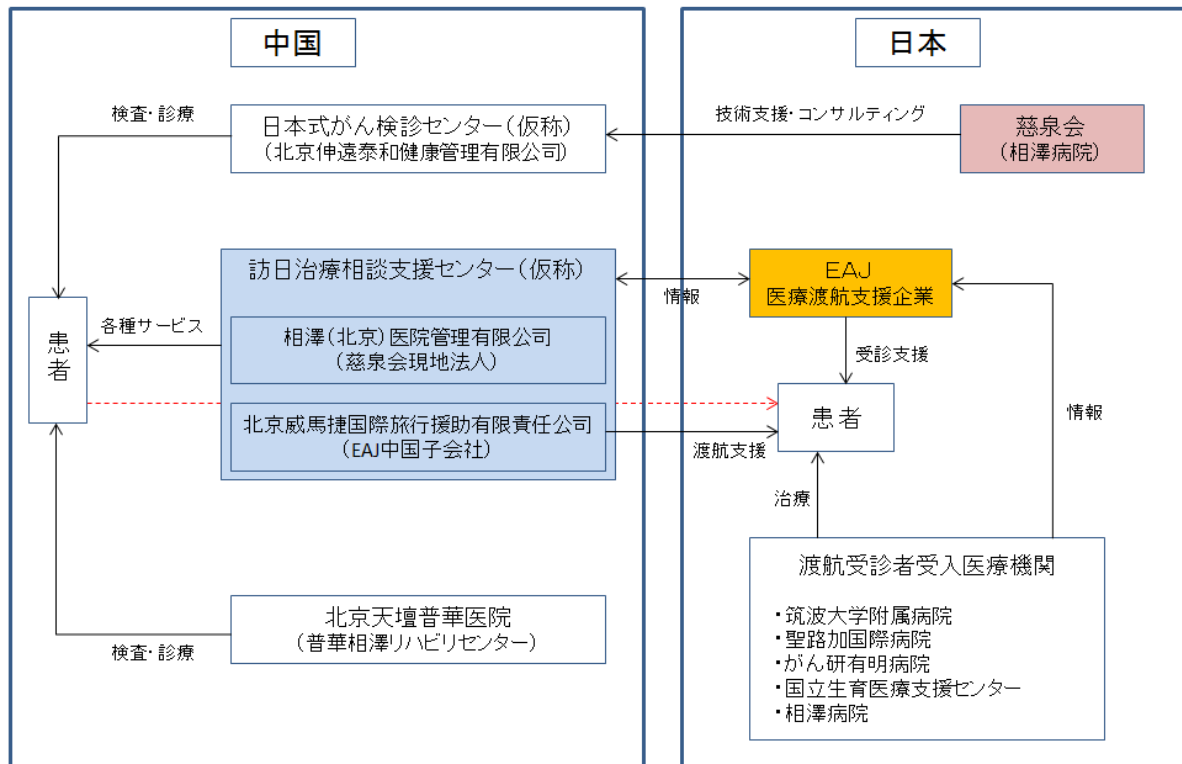
- ・全社的なリエンジニアリングの継続により、全業務について徹底した効率化を進め、少数精鋭での業務処理体制を構築。
- ・全社目標と各部署の目標をリンクすることで、全社員が会社の利益とコストを意識して活動。

事業基盤の横展開による新規事業の獲得

- ・社内の救急救命士・看護師などの有資格者を活用したイベント救護・僻地への駐留業務を実践し、認知度向上に努める。
- ・インバウンド需要の掘り起こしのため国内外の法人等に対し積極的な営業を実施。
- ・コンシェルジュサービスの充実により新規サービスへの準備。

慈泉会と提携し中国人患者へ日本の医療を手配

- 8月19日に社会医療法人財団慈泉会と提携し、その現地法人である「相澤(北京)医院管理有限公司」と当社中国子会社が共同で、北京市内に患者送り出し拠点としての「訪日治療相談支援センター」を立ち上げ、その運営を開始した。
- 訪日治療相談支援センターは中国から日本への患者送り出し拠点として、現地において訪日治療に関する相談・支援活動や日本の医療機関(医療)等のPR活動を積極的、且つ効果的に実施する。
- 当社は同センターを通じて中国人患者を日本の医療機関へ送りながら訪日治療における「来日前」と「来日後」の課題解決について尽力する。



各種施策に関する主要NEWS RELEASE

個人投資家向け説明会を開催 株主とのコミュニケーションを深めた

第8回「国際医療搬送 医療者講習会」開催



日本エマーゼンシーアシスタンス㈱
Tel: 03-3811-8160 Fax: 03-3811-8183

EAJ投資家向け説明会

1. 日時：2016年8月23日（火） 14：30～ 16：30（開場：14：15～）
2. 会場：文京シビックセンター26階「スカイホール」
東京都文京区春日1丁目1番21号
TEL：03-5803-1100
3. <プログラム>
「EAJ 第2四半期決算報告と当社のアシスタンス事業」
～主として個人投資家向けに当社の事業内容と
最近の業績について詳しくご説明します。～

吉田 一正 日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社
代表取締役社長
4. 参加費：無料
5. 参加方法：参加ご希望の方は以下のいずれかの方法で事前に参加申し込みを
して下さいますようお願いいたします。
(1) 当社HPの「お問い合わせ」ページから「IRに関するお問い合わせ」
を選び、メール送信する。（※）
(2) メールアドレス(ir-info@emergency.co.jp)に①氏名、②連絡先TEL、
③会社名を記載してメール送信する。（※）
(3) 下記の申込用紙に必要事項を記載の上、03-3811-8159宛にFAX
送信する。
※メール本文に「投資家向け説明会参加希望」と記載してください。

問合せ先 03-3811-8121 管理部 IR担当 水島







第八回 国際医療搬送 医療者講習会 報告

日時：2016年10月1日 10時～16時
場所：主婦会館プラザエフ7階

EAJが事務局を務める「EAJ ファウンダーズの会」（代表 日本医科大学名誉教授 山本保博先生）主催の標記講習会は今年第8回目を迎え、「多様化の時代に求められる統率力 ～平時から未来を展望する～」というテーマを掲げ、国際医療搬送の実情のみならず、日本と他国の現状などを例に挙げ、さまざまな視点から講師の先生方がお話しくださいました。

医療現場の最前線でご活躍されておられる方から将来を担う看護師や救急救命士の学生の方々まで総勢90名の参加を得て、それぞれの大変興味深い講演を通じて、「統率力に求められる条件はなにか」を参加者自身が考え、理解を深める機会となりました。

今後もこのような継続的な活動を通じ、安全で安心な国際・国内医療搬送を展開することを目的に、医学界はもとより、さまざまな分野、業界の方々と共に医療アシスタンス会社として、社会に貢献していきたいと考えております。

【講演当日の写真】



開会時の様子



講演の様子



講演の様子

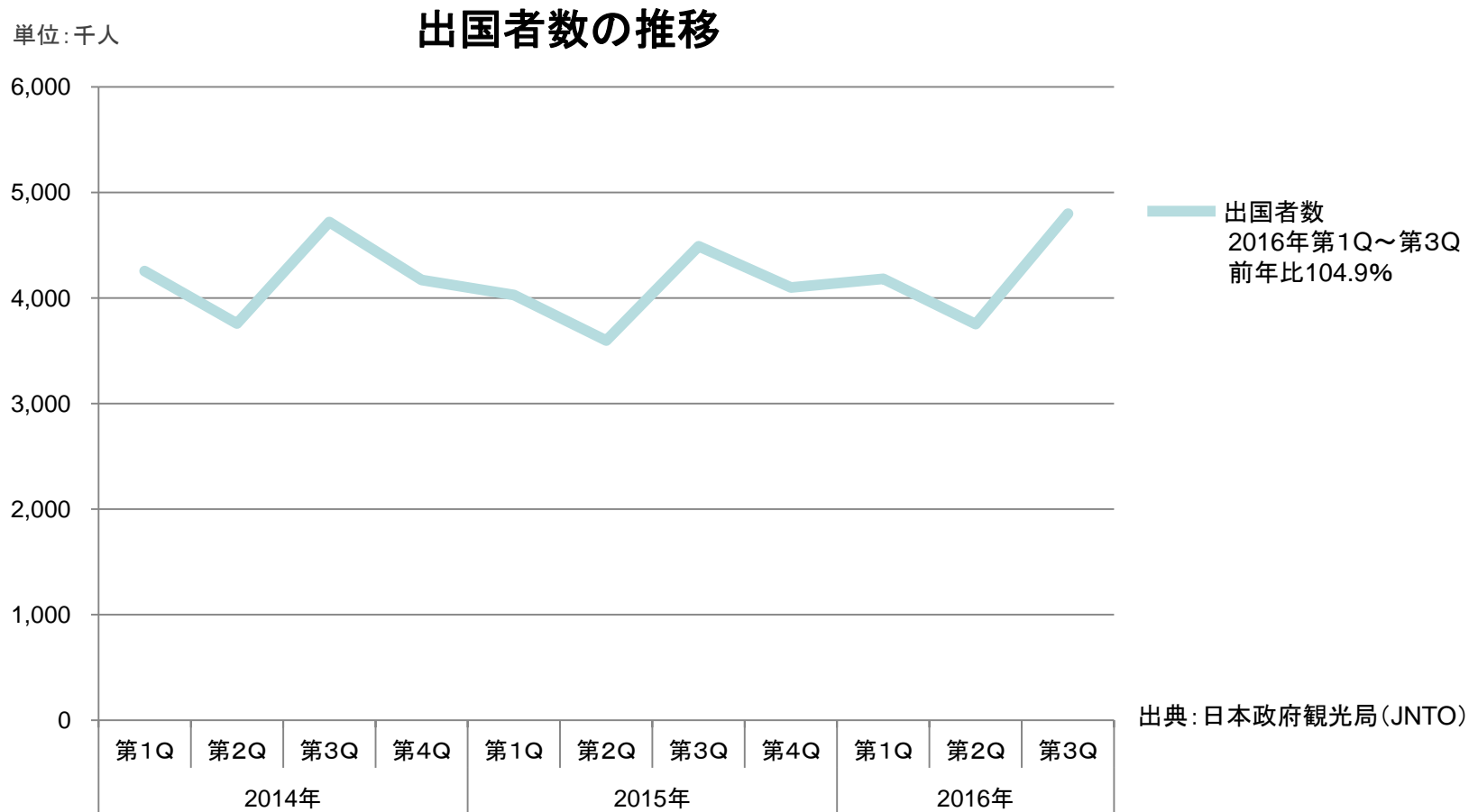


講演の様子

IV. 2016年の事業環境

海外出国者数の推移

- 海外出国者数の増加に伴い、医療アシスタンスに対するニーズが増加している。
 ▶円高の進展等の理由により、海外出国者数は増加している。



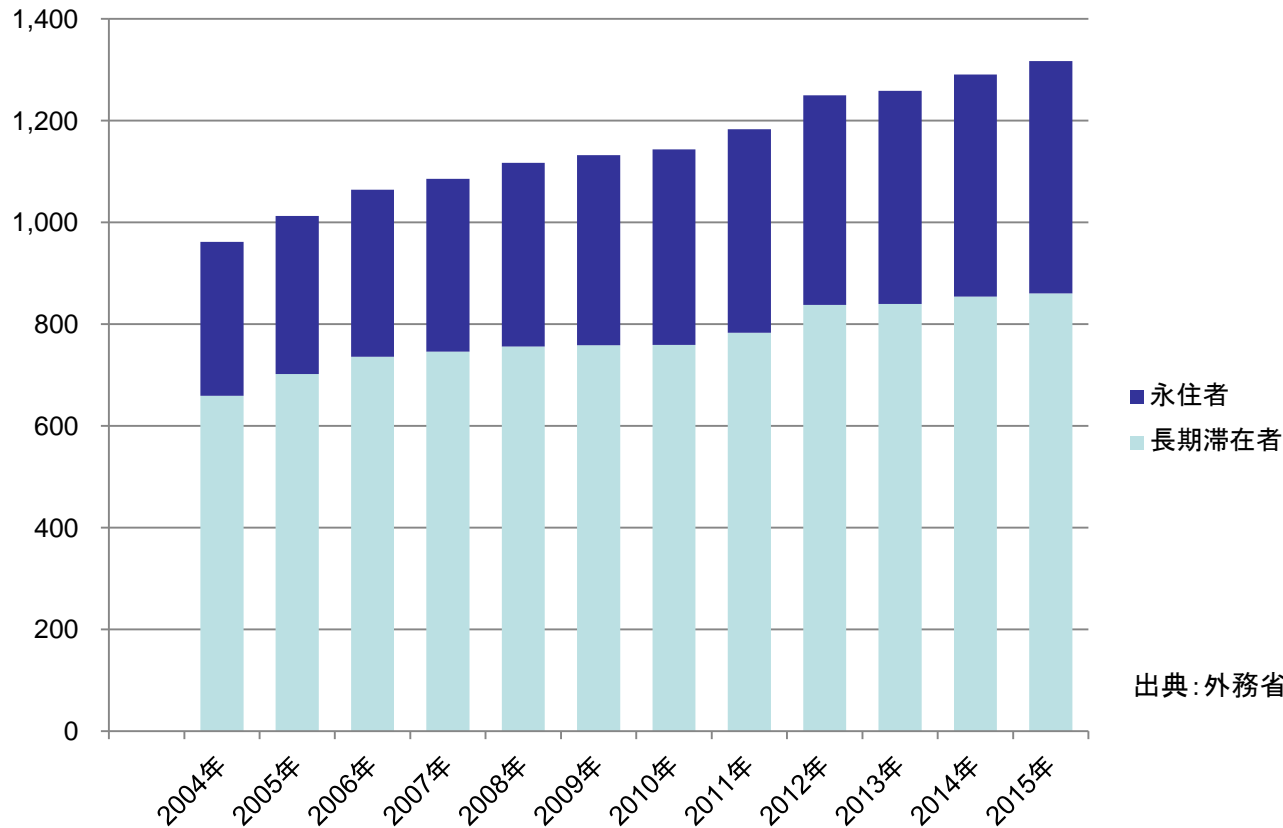
海外在留邦人数の推移

- 海外在留邦人数は1,317千人(※)であり、年々増加している。
- 長期滞在者は在留邦人全体の65%、永住者は35%となっている。

※ 2015年10月時点。いずれもカウントしてから過去最高の数値。

単位：千人

海外在留邦人数推移



出典：外務省 海外在留邦人数調査統計

海外における医療リスク

- 海外での邦人の死亡原因のトップは病気(疾病)であり、約8割を占める(※)。
- 海外の医療では日本と医療事情やシステムが異なる以下の問題に直面する。

※2014年海外邦人援護統計より



●海外医療で直面する問題点

- 日本との医療水準の違い
- 医療システム・スタイルの違い
- コミュニケーションの難しさ
- 高額医療費
- 医薬品、器材、設備への信頼感(輸血、二次感染、偽薬等)
- 気候の変化による疲労や脱水
- その国独特の感染症、風土病
- 大気汚染による呼吸器疾患 等



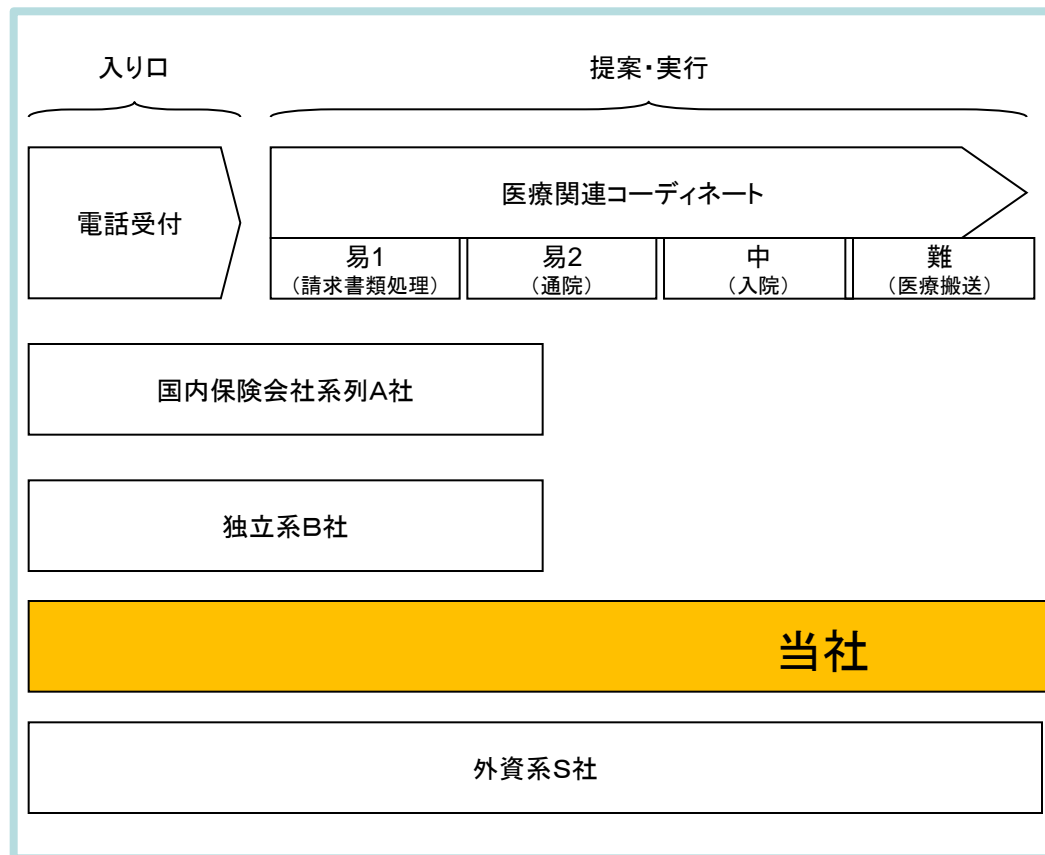
●医療システムの違い

| | 日本 | 海外 |
|-----------|------------------------------|--------------------------------------|
| ホームドクター制度 | 無 | あり (一般医と専門医) |
| 病院のシステム | Closed System (勤務医は病院で雇用) | Open System (医師は独立採算、病院の施設を借りて診察) |
| 予約 | 予約以外も診療 | 予約制 |
| 診察料 | 保険診療 | 自由診療 (診察料が医療機関ごとに異なる) |
| 会計 | 総合窓口で一括 | 各窓口で個別 |
| 救急車 | 無料 | 有料 |

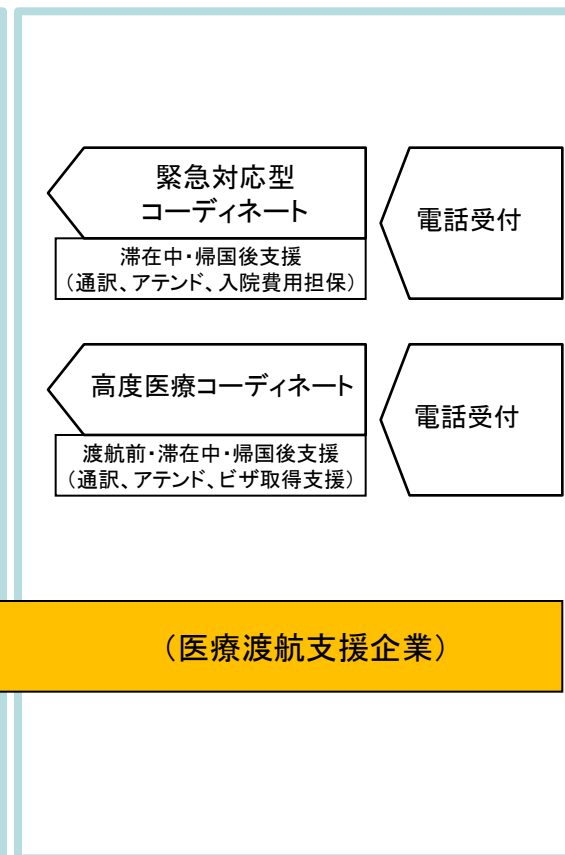
当社の医療アシスタンス事業領域

- 当社の医療アシスタンスはアウトバウンドでは医療搬送などの難易度の高い医療アシスタンスサービスを提供する点、インバウンドサービスにも力を入れている点で他社と大きく異なる。

アウトバウンド (日本人に外国の医療機関を手配)

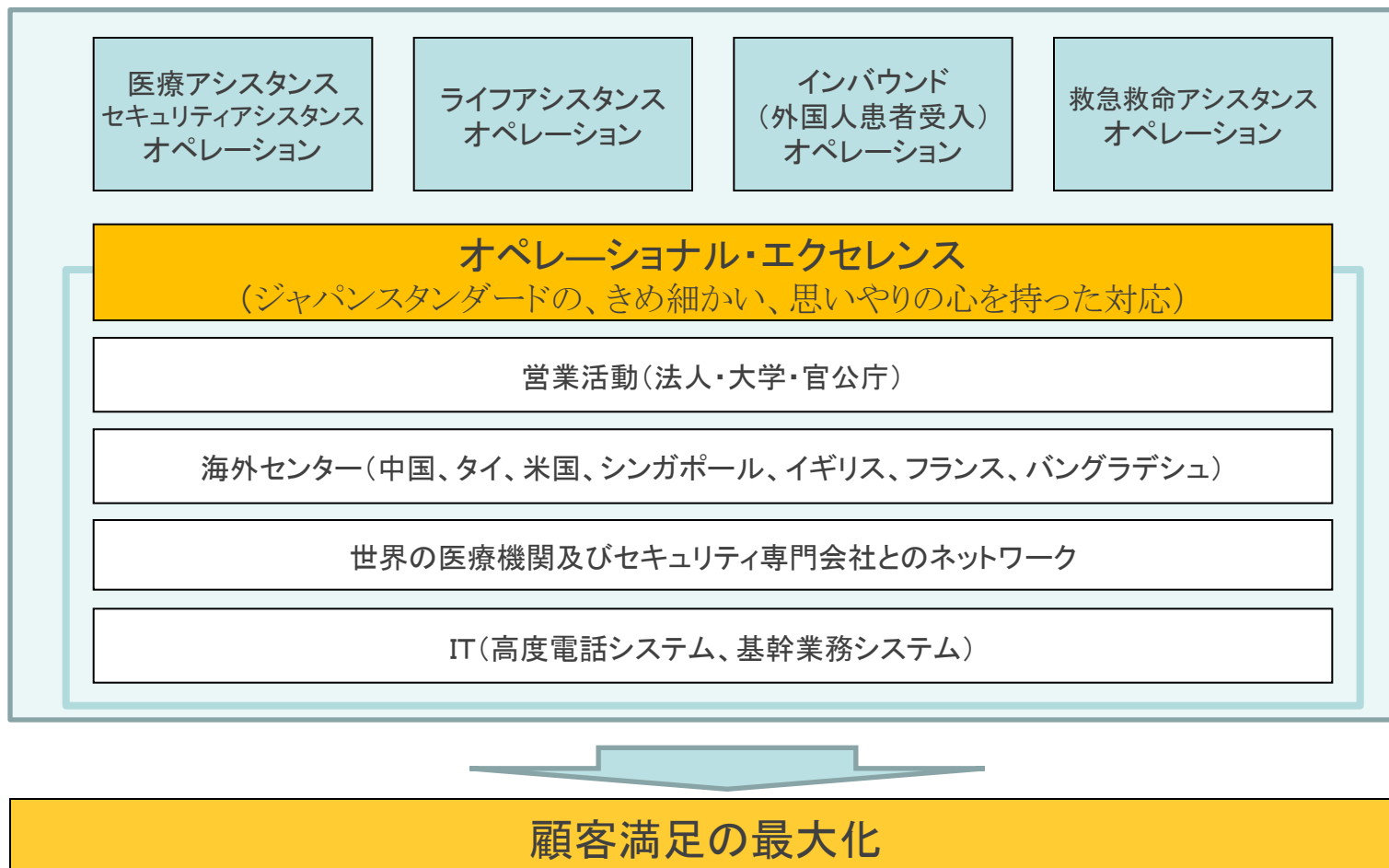


インバウンド (外国人に日本の医療機関を手配)



オペレーショナル・エクセレンスの実現

EAJは常によりよいオペレーションの追求を全社で共有し、継続的なオペレーションの進化を可能にする仕組みを整え、顧客満足の最大化を目指す。



V. 2016年業績予想について

2016年の業績予想修正について

●営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益については前回発表予想を上回る見込である。

▶売上は官公庁向け事業の売上の減少と4月より一部の保険会社との契約更新を見送ったため損害保険引受業務の売上が減少し、前回発表予想を下回る見込み。

▶費用は円高により海外センターコストが抑制され、また、各種効率化への取組みにより費用発生が抑えられる。

▶海外の医療機関への立替金払いのための保有する外貨に為替差損が発生する見込み。

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり純利益 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-----------------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円銭 |
| 前回発表予想(A) | 2,735 | 90 | 80 | 55 | 22.82 |
| 今回発表予想(B) | 2,550 | 140 | 95 | 63 | 26.04 |
| 増減額(B-A) | △185 | 50 | 15 | 8 | |
| 増減率(%) | △6.8% | 55.6% | 18.8% | 14.5% | |
| (ご参考)前期実績 (平成27年12月期) | 2,530 | 135 | 131 | 89 | 36.71 |

VI. インバウンドサービスについて

インバウンド事業について

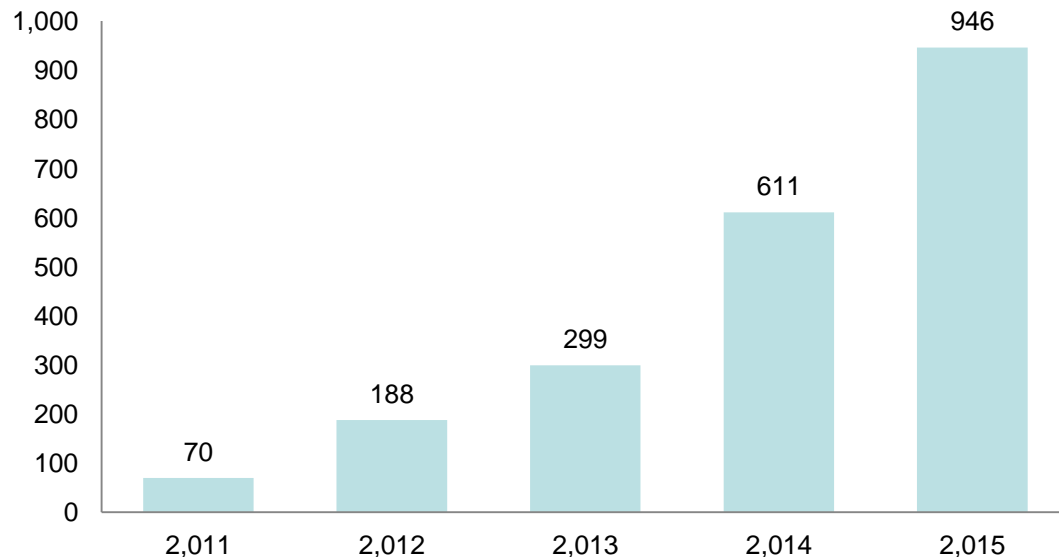
- インバウンド事業の売上は医療ツーリズム、緊急医療対応型アシスタンスともに増加傾向にある。
- 医療ツーリズムの課題は日本の高度医療の認知度の低さにある。
→慈泉会と提携した訪日治療相談支援センターや「就医160」との業務提携等を活かし、日本の医療ツーリズムと当社サービスのプロモーションを今後も積極的に世界に向けて実施していく。
- 訪日外国人への緊急医療対応の課題は保険(海外旅行保険、日本でも利用できる医療保険、健康保険)に未加入の外国人に対して、代金回収をどう担保するかである。

| インバウンドの種類 | ケース | 当社の対応 | 実績 |
|------------------------|---|---|---|
| 医療ツーリズム (高度医療受診の紹介) | 高度先進医療の受診 ・がん重粒子線治療 ・内視鏡 ・循環器、再生医療 ・人間ドッグ 等 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関コンサルテーション ・来日から帰国までのアレンジメント ・医療滞在ビザの取得サービス ・24時間365日のコールセンターサービス ・通訳・翻訳、支払代行サービス | 45カ国以上1,000名を超える外国人患者に対して100を超える医療機関に受入れを手配。 |
| 訪日外国人への 緊急医療対応 | 訪日外国人が病気や怪我をした場合 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な国内医療機関の紹介 ・通訳・翻訳、支払代行サービス ・医療機関への支払方法相談 | 以下の場合にサービス提供 <ul style="list-style-type: none"> ・海外のアシスタンス会社からの依頼 ・国内で加入できる旅行保険の患者の依頼 ・医療費の支払いが担保された患者の依頼 |

医療ツーリズムの状況

- 医療ツーリズムの状況を公式に調べたデータはないが、「医療滞在ビザ」の発給統計が一つの指針となる。医療ビザ発給の対象者は「日本において治療等を受けることを目的として訪日する外国人患者等」となっているが、発給数の中には治療目的よりも人間ドックや療養のための滞在を目的とした方も多いと考えられる。
- ビザ発給件数からも治療のために来日する患者の多くは中国から来ていると想定される。
- 当社の受け入れ実績でも6割強が中国からの患者であり、次にロシアが多く、ビザ発給件数の順位にほぼ一致する。

医療ビザ発給件数



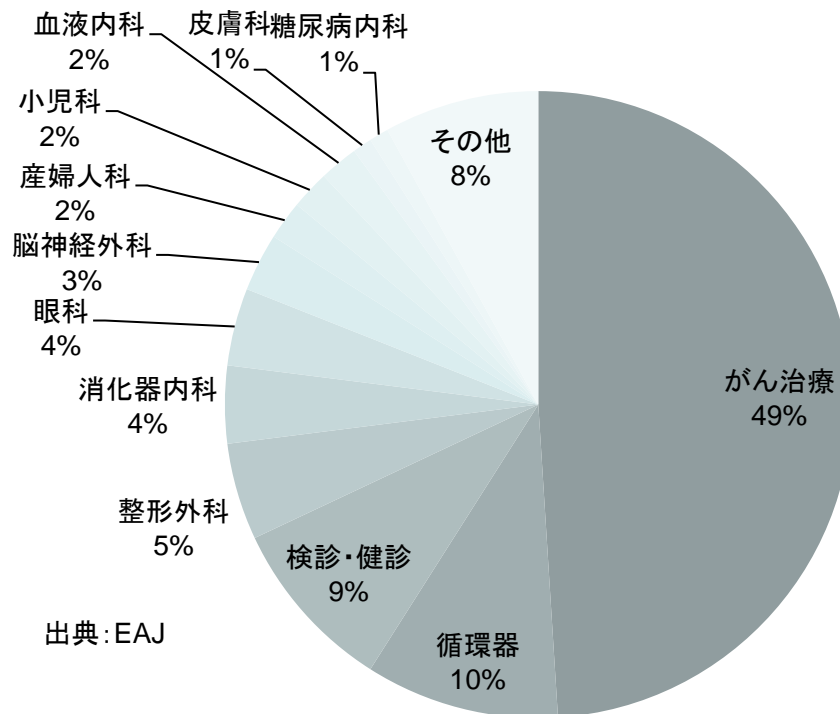
2015年 国籍別ビザ発給件数

| 順位 | 国籍 | 人数 |
|----|--------|-----|
| 1位 | 中国 | 829 |
| 2位 | ロシア | 69 |
| 3位 | ベトナム | 17 |
| 4位 | モンゴル | 8 |
| 5位 | タイ | 6 |
| 6位 | ミャンマー | 2 |
| 6位 | ウクライナ | 2 |
| 6位 | インドネシア | 2 |
| 6位 | マレーシア | 2 |
| 6位 | ルーマニア | 2 |

医療ツーリズム疾患・治療法別の傾向（当社実績）

- 医療ツーリズムの患者は、当社の受け入れ実績でみると、日本の高度先進医療を求めて来日するケースが多く、疾患別では「がん」が最も多く、循環器、整形外科、消化器内科と続く。
- 日本でしかできない、あるいは日本で非常に治療実績の高い治療を求める傾向があり、代表的な治療法としては重粒子線や陽子線治療、内視鏡手術などが挙げられる。
- 日本で開発された新薬を受けたり化学療法を受けに来る場合や日本の医師が発見した病気、開発した術式についての問合せも多い。比較的短期間の来日で完結する治療が訪日治療に向いている。

2015年EAJ受入 診療別傾向



外国人患者の問合せは多岐にわたる

例

- ・日本の整った設備で治療を受けたい。
- ・自国で受けた診断が信用できないので日本で検査をして確定診断を受けたい。
- ・日本の専門医のセカンドオピニオンを受けたい。
- ・具体的な病名を挙げて日本でどのような治療ができるか知りたい。
- ・具体的な治療法を挙げて、患者の症状に対し適用があるかどうか知りたい。
- ・具体的な病院名や医師名を挙げ、そこで診てもらいたい。

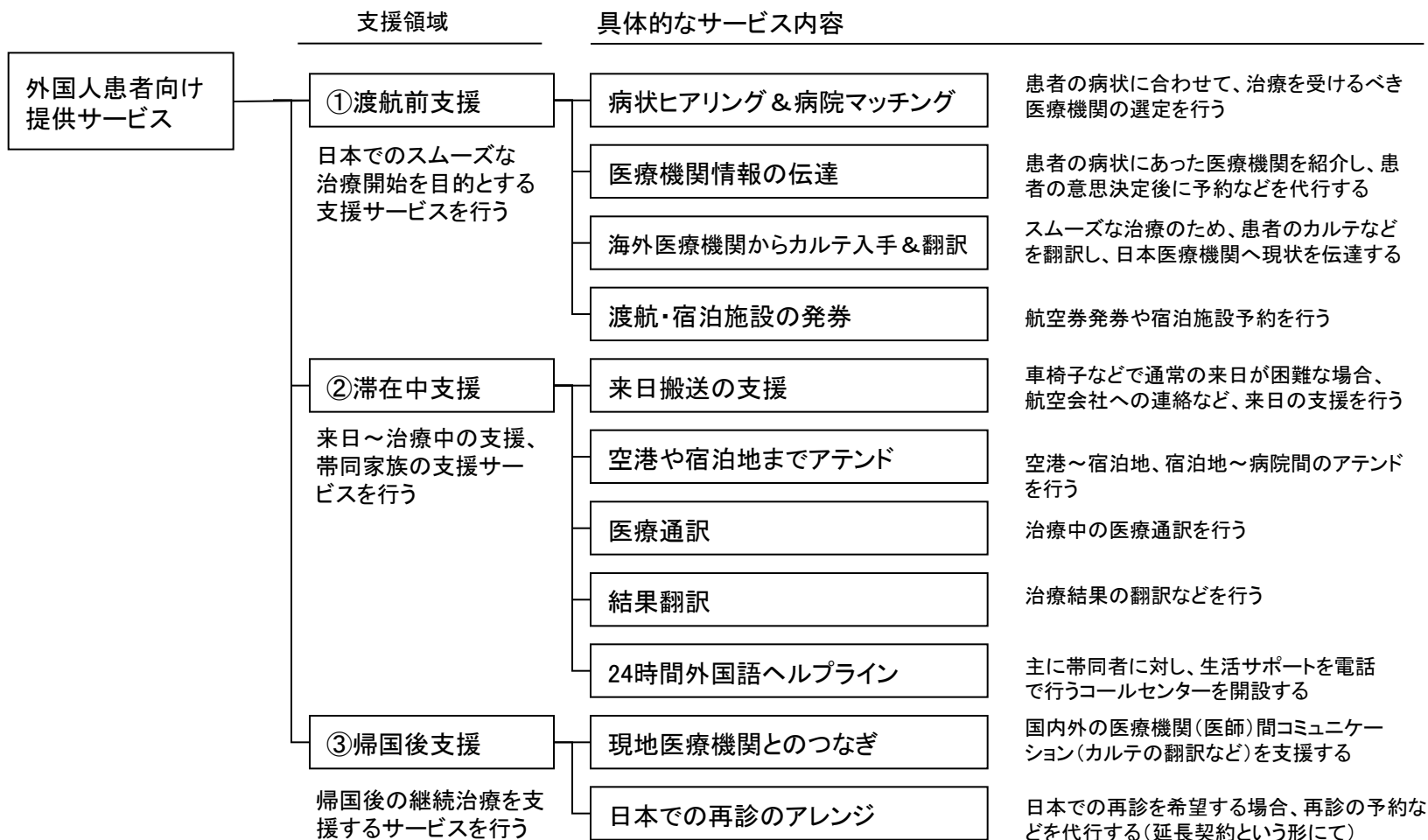
医療ツーリズム諸制度と当社の強み

- 医療滞在ビザは外国人受け入れ環境を整備し促進していくことを目的に創設された制度である。
医療滞在ビザを利用する外国人患者およびその同伴者がビザ申請を行うに際しては、同ビザの身元保証機関に登録されている国際医療交流コーディネーターまたは旅行会社等の身元保証を受ける必要がある。当社は身元保証機関第1号である。
- 2015年9月には海外からの患者の受け入れにかかわる業務において質の高いサービスが提供できるコーディネーター企業を認証する「医療渡航支援企業」制度がスタートし、当社が初めて正認証を受けた。
- 当社は外国人患者、日本の医療機関双方が最大限の満足・利益を得られるようきめ細やかなサービス提供を実施することを心掛けている。

| 訪日治療の諸制度 | 制度取得の要件 | 当社のステータス |
|-----------------|---|--|
| 医療ビザの 身元保証機関 | 医療滞在ビザで入国した人の身元保証をするコーディネート団体で、政府に登録を実施することが必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身元保証機関第1号 ・2011年2月に最初の案件の身元保証を実施 |
| 医療渡航支援企業 | 第1次条件として医療滞在ビザの身元保証機関に登録されていることが必須とされ、さらに受入れ実績や医療機関からの推薦状、旅行業やPマーク資格の有無などが必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2015年9月に正認証 |

医療ツーリズムにおける当社提供サービス

当社は医療ツーリズムで来日する外国人患者に対して以下のようなサービスを提供している。

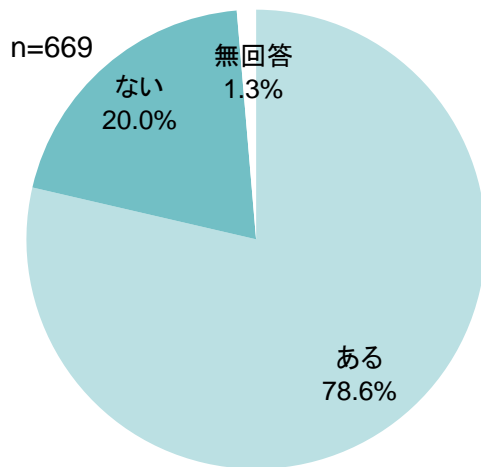


国内医療機関の外国人患者受入について

- 外国人患者の受入れ経験がある国内医療機関の比率は高く、訪日外国人の増加に伴い増加傾向にある。そして受入れ人数が少ない(10人未満)医療機関も多い。日本では外国人の受入れは全国の医療機関に遍在している点の特徴である。→ここに医療コーディネーターのニーズがある。
- 外国人患者受入れについての問題点は①言語・会話(他言語対応)、②医療通訳の提供体制、③治療費の不払いが上位となっている。
→①～③を解決するのが医療コーディネーターの役割である。但し、③に関してはアシスタンス会社が対応できるのは保険等により代金回収が担保される場合である。

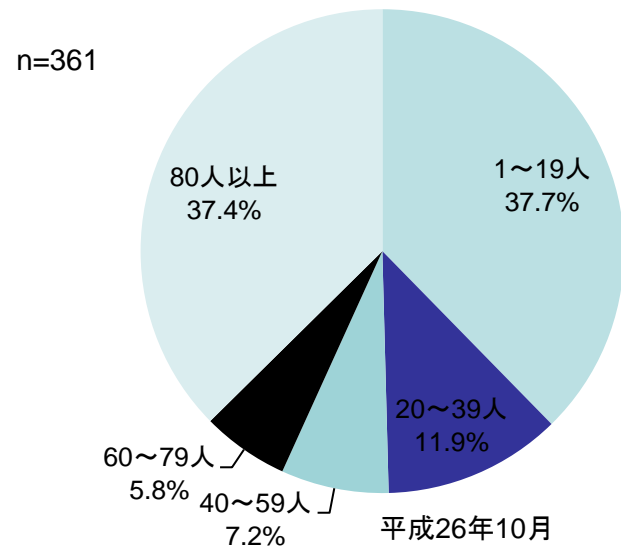
外国人患者受入れ経験

外国人患者の何らかの受入経験がある病院は78.6%である。



来院患者数

外国人患者の受入人数は1～19人の病院が37.7%
80人以上の病院が37.4%と二極分化している。



出典:平成27年度「医療の国際展開に関する現状調査」結果報告書
一般社団法人 日本病院会

平成26年10月
～平成27年3月のデータ

外国人が日本で医療を受ける際の課題

- 「言語」「治療費の未払い」の課題に対して当社は以下の対応を実施できる。

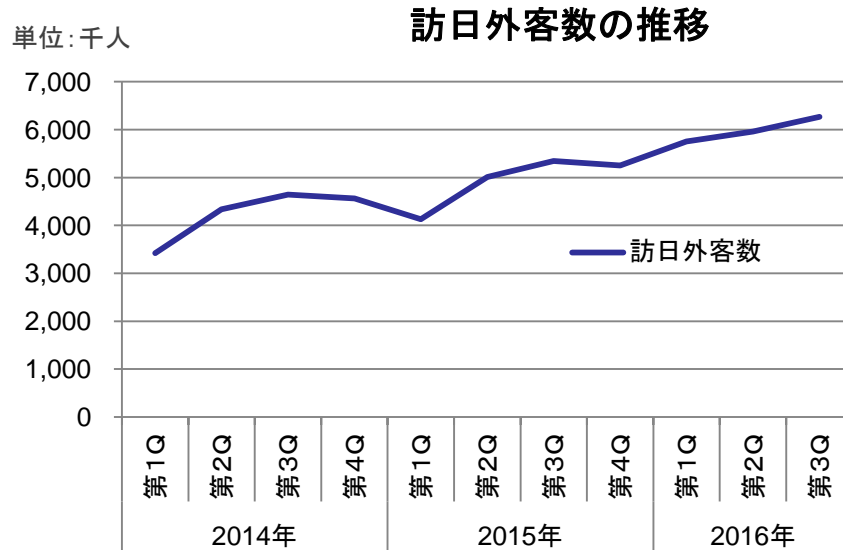
| | 課題 | 国内医療機関側の問題点 | EAJの対応 |
|--|---------|---|---|
| 医療ツーリズム (治療目的の訪日 渡航) | 言語 | <ul style="list-style-type: none"> ・診断書などの医療情報が外国語で記載されている ・診察やインフォームドコンセント | 社内外のリソースで完全対応 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語に翻訳 ・医療通訳 等 |
| | 治療費の未払い | <ul style="list-style-type: none"> ・医療費概算、通訳費用など含めたコーディネート費用を請求 | <ul style="list-style-type: none"> ・前払いで送金を依頼し、実際の費用との精算業務(追加費用請求、残金返金)もEAJが実施。 <p>→「未払い」の問題はほとんどない</p> |
| 緊急対応型 患者紹介 (短期訪日の外国人 が怪我や病気に見舞われた場合の対応) | 言語 | <ul style="list-style-type: none"> ・医師とのコミュニケーション、入院の場合には病院のルール説明など通訳が必要になる | 対応できる体制整備を進めている <ul style="list-style-type: none"> ・社内に複数言語に長けた人材を多数確保(英語、中国語他) ・通訳・翻訳会社と提携多数 |
| | 治療費の未払い | <ul style="list-style-type: none"> ・治療をしても支払が担保されるとは限らない。(外国人がその場で支払をしないリスクが発生。) | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人の支払が担保される場合には当社で対応可能(※)だが、担保されない場合は対応不可能。 <p>→支払を担保できる体制・システムの構築が求められている。</p> |

※外国人の支払が担保される場合

- 外国人が現地で保険(海外旅行保険、日本でも利用できる医療保険・健康保険)に加入している場合で海外のアシスタンス会社・保険会社から依頼があった場合
- 外国人が日本で旅行保険に加入している場合。(例、損保ジャパン日本興亜(株)の訪日旅行保険など)
- 外国人の支払を第3者が保証した場合(旅行会社が保証、領事館が保証、帯同家族が保証している場合等)
- その他支払が保証される場合(現金払い、カード決済等)

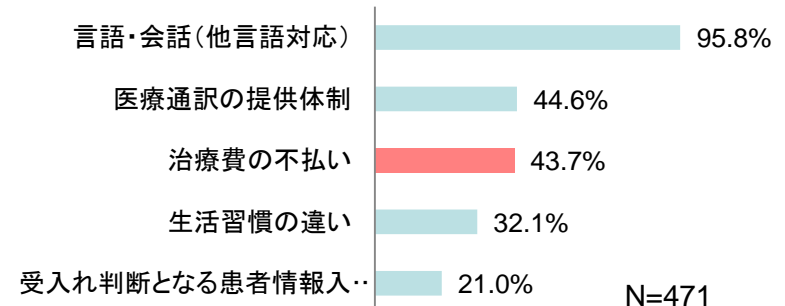
緊急対応型インバウンドのニーズは今後増す

- 訪日外客数は増加に伴い外国人の不慮の病気・怪我は増加している。また、国内医療機関から外国人患者の扱いについて問合せ件数が増えており、外国人患者と医療機関を介在する医療コーディネーターのニーズが高まっている。
- 未払いの問題については訪日外国人が本国で保険（海外旅行保険、日本で利用できる医療保険・健康保険）に加入、あるいは日本で国内旅行保険に加入すればほとんど解決するが、アジア圏では海外旅行保険に加入するという文化がそれ程根付いていないことが問題である。
- 当社は国内外の医療機関、保険会社、カード会社、官公庁、旅行会社等との連携により出来る範囲で外国人患者の治療費が未払いにならないような体制構築を目指す。
→緊急対応型インバウンドをビジネスチャンスと捉え、積極的に体制構築に尽力していく。



出典：日本政府観光局（JNTO）

外国人患者受入れについての課題



日本病院会のアンケートによると、治療費の不払いを課題とする医療機関は43.7%である。

出典：平成27年度「医療の国際展開に関する現状調査」結果報告書
一般社団法人 日本病院会

VII. 当社のビジネスモデルについて

当社の業界内ポジショニング

- 世界の大手アシスタンス会社はロードアシスタンスなどの事業の多角化により売上高1,000億円以上規模である。
- 当社はまず医療アシスタンスとその周辺事業を強化して業界内で競争優位を獲得し、顧客満足を最大化する。
- 上場しているアシスタンス会社は世界でも稀である。

〔 医療アシスタンス事業における
業務範囲 & 資本関係による区分 〕

〔医療アシスタンス事業を展開する事業者〕

- 医療アシスタンスサービスをフルラインナップ・ワンストップでサービス提供

- 日本エマージェンシーアシスタンス
- 外資系S社
- 世界のグローバルプレーヤー4社
※S社と4社が大手アシスタンス会社

- 医療アシスタンスの1次受けをメインに実施しているアシスタンス会社

- 国内保険会社系列A社
- 独立系B社

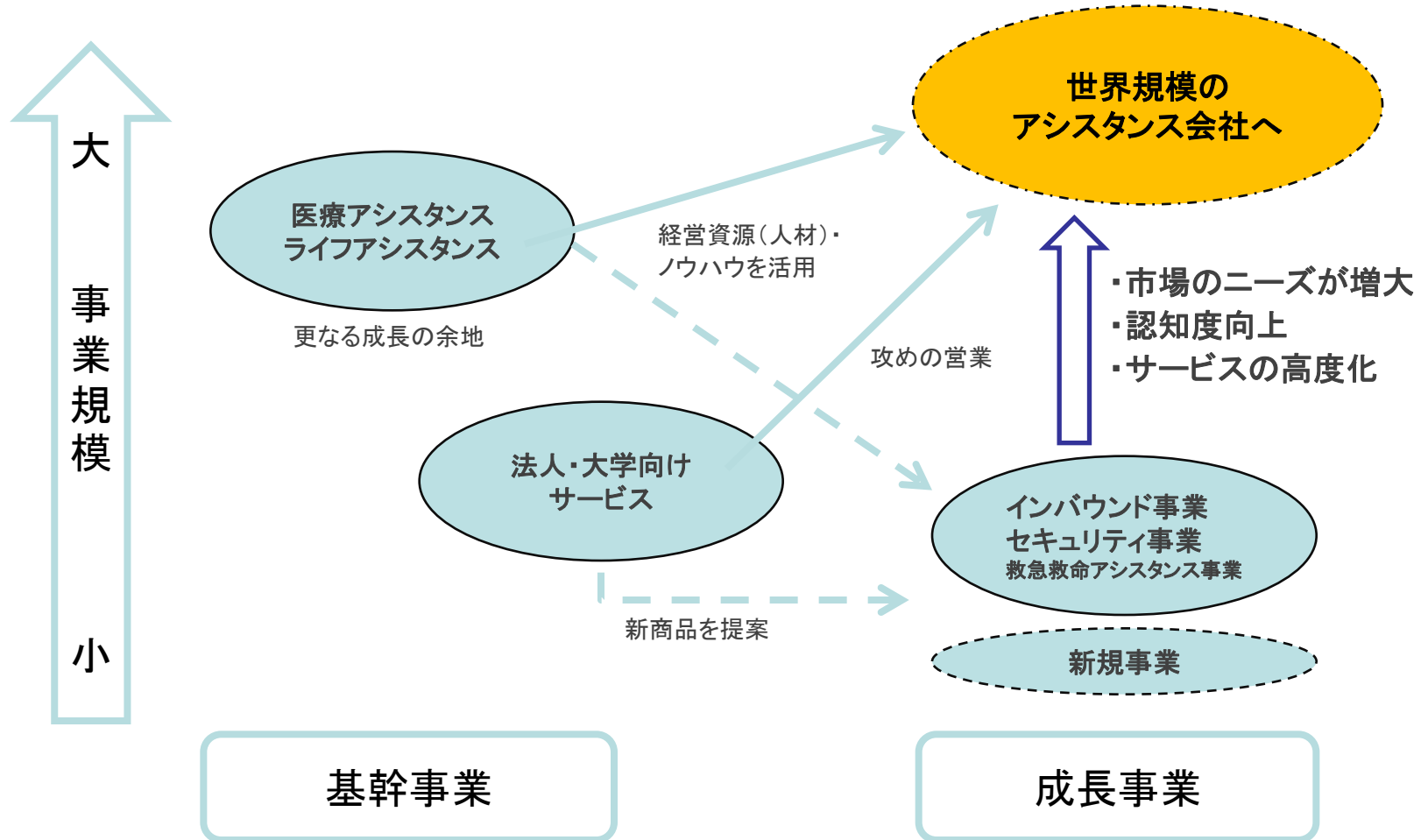
フルラインナップ
コーデイネイト業務
医療アシスタンス事業の展開
1次受け中心
コールセンター

| | |
|--|-----------------|
|  外資系S社 | 世界のグローバルプレーヤー4社 |
| 独立系B社 | 国内保険会社系列A社 |

独立系 保険会社系
資本関係

EAJの事業展開イメージ

基幹事業である医療アシスタンス事業及びライフアシスタンス事業のノウハウを活用して成長事業（インバウンド・セキュリティ・救急救命アシスタンス事業等）を伸ばす



VIII. 当社サービスについて

海外進出企業・学校法人が抱えるニーズ

- 海外進出企業・学校法人は、海外で起こる様々なリスクに対応しなければならない。
- 海外リスクのマネジメントをプロフェッショナル企業に外注することは選択肢の1つである。

法人・学校法人のお客さまが抱える具体的なニーズ

- ▶ 各国現地支社・留学生の要望で、現地病院受診の仕組みを構築しなければならない。世界各国の駐在員・留学生に均一のサポート体制が必要
- ▶ 政情不安な地域で、有事の際に具体的な対応ができる手段を探している。危機対応プランを策定、事前に本社・本校・現地にて共有して、事態に備えたい。
- ▶ 独自に駐在員・留学生向けサービスを検討している。各国の状況に即したサポート体制を提供できる仕組みを、社内・校内に導入したい。
- ▶ 例えばオリンピックで協賛会社として開催前から多くのスタッフを現地に送り、開催期間中にゲストを招待する。危機管理や医療の手厚いサポートを提供できる方法は無いか(※)。
- ▶ 人事・労務・安全管理担当として、政情不安やインフラ不足の地域で、有事の際にどうするべきか、現地の医療情報収集と重症対応時の計画を事前にシミュレーションしておきたい。

当社が提供するサービス



医療アシスタンスサービス



セキュリティサービス



場所や期間を特定した医療
アシスタンスサービス

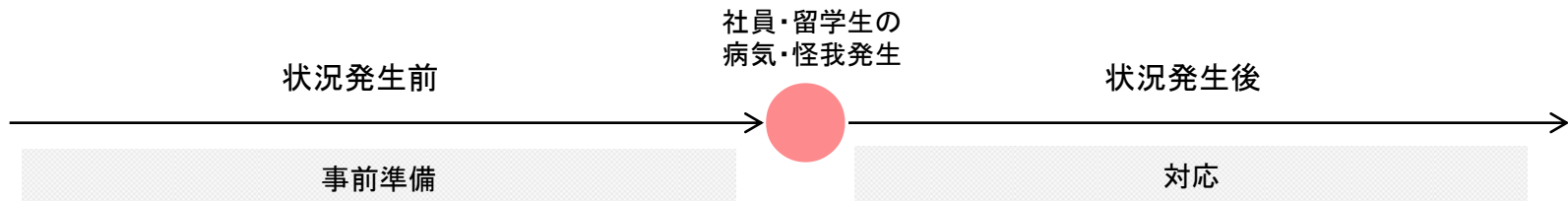


コンサルティングサービス

※EAIはリオオリンピックで国際的大手メーカーに医療アシスタンスサービスを提供しました。

企業・学校法人向けサービス

EAJは会員に対する業務遂行において的確かつ迅速なアシスタンス手配が遂行出来るよう、現地サービス体制、セキュリティ体制等、移送・搬送ルート等を可視化するシステムを利用して万全の体制を構築します。



事前コンサルティングサービス

- 世界各国の医療事情報告
- 世界各国の医療機関情報の提供
- 世界各地からの緊急搬送ルート・シミュレーション
- 特定地域のアシスタンス調査・配置



海外24時間医療アシスタンスサービス

- 海外における現地病院の手配
- 医療通訳アレンジ
- 入院費・治療費の支払保証・支払
- 日本人専門医による治療状況のモニタリング・
- セカンドオピニオン提供
- 医療者の派遣
- 緊急医療搬送(近隣医療先進国・日本への搬送)



アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社